

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 3月 15日

事業所名 アダージョ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	基本的に問題なく条件もあってます。取組み内容によって室内のレイアウトを整理して使用しています。	
	2 職員の配置数は適切である	7	0	児童の特性に合わせています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	段差はなく比較的すっきりと使えています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	こども目線でもう少し工夫ができています。	机の配置をさらに工夫して、一目でわかる視覚支援にする
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	0	定期的（週1）に業務ミーティングを行っています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	アンケートや評価表などは定期的に行っています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	ホームページで公開しています。	集計結果を掲示板に貼り出します。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	7	関係機関に相談質問しています。	来年度以降は内容を確認し、検討します。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	社内外の研修を定期的に行っています。	職員の将来の在り方から、受けたい研修内容の要望にも応えていきます。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	療育後や定期的に面談させていただきます。面談やアセスメントの研修を行っています。	利用計画における総合的な援助方針を踏まえ、両計画の連動重要性を認識し作成します。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	標準化したツールを使っています。	今後もより良いものを探求していきます。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0	個々に必要な内容から具体的支援内容が設定されています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	いつも計画にある道標に沿って支援を行っています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	毎週、みんなで話し合うミーティングで決めています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	毎月毎週、季節や行事に合わせて変えていっています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0	いろいろな要素を組み合わせ、支援計画に盛り込んでいます。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0		
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0		
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	日々、療育日誌を書いて振り返りを行っています。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3	4	6か月単位で見直しを判断しています。	今後は1か月単位のPDCAサイクルで検証して、どうすべきか判断します。	
21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	状況に応じて児発管や責任者、担当者が立ち会っています。		

関係機関や保護者との連携	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0	連携は取れています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	0	該当なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	0	該当なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	該当なし	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	就学に合わせてしっかり行っています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	5	研修の場で他の事業所やセンター職員と情報共有をしています。	新年度からは中核連携等で取り組んでいきたいと思っています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	4	ないことはないが大変少ないです。	イベントや行事を使って活動する機会を増やしたいです。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	0	できる範囲で参加しています。	自治体や地域から情報収集して、年間行事として予定を立てていきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	毎回、連絡帳でやり取りして、しっかり話しています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	0	毎月、イベントとして行っています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	重要事項や利用計画をもとに運営規定も網羅して行っています。	今後は、運営規定自体を一部配布して保管して頂くように検討します。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	2	しっかり行えています。	今後は、ガイドライン研修を行い、熟知して作成に関与してもらいます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	毎月、こちらから相談アンケートを取ったり、その他にも働きかけています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	0	毎月、お伝えしてイベントを行っています。	保護者会という名目で行っていないので、保護者に違和感を与えない説明を行っています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	すぐに共有して対応しています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	毎月、いきいきだよりに盛り込んで、会報として配布しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	厳しく持ち出しや保管に関するルールを決め管理しています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	保護者に合わせて分かりやすくお伝えしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7	地域住民を招待するイベント等は行っていません。	講演会やイベント等は行っているので、今後はもっと発信力を幅広い手段で取り組みます。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	策定周知し取り組んでいます。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	避難訓練を活動として年2回行っています。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0	通所開始時にしっかりと把握して、全員に共有しています。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	通所開始時にしっかりと把握して、全員に共有しています。	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	社内研修で取り上げて共有しています。	今後は、事例集の幅を広げて気づきや推測など想像力を培う研修を行います。

46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	年2回、研修と訓練を実施しています。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	しっかりと行えています。	今後は、少しも行わないことを前提にした仕組みや環境を追及して達成したいです。